II-A-11

慢性関節リウマチ(RA)に対する柴苓湯の効果
(第一報)

中勢総合病院 整形外科

○大萱 稔, 四方谷弘司, 藤井一郎, 富田良弘

目的 RAの原因療法がない現在, いかにかRA炎症をコントロールできるかが, 薬物療法の最大の目的である。その為には種々の西洋薬での副作用を抑え, 長期に使用し得るかが, RA治療の鍵である。そこで現在西洋薬で一定のレベルに治療管理されているRA患者に柴苓湯を併用投与して興味ある臨床成績を得たので報告する。

対象ならびに方法 ARAの診断基準でclassicalまたはdefinite RAと診断された男12例, 女48例で, 年齢は平均58.8才, 病年は平均11.8年であり当科での治療期間は平均4.7年あった。柴苓湯エキス剤(ツムラ)を6.0~9.0gr/日を西洋薬を変更することなく併用投与した。その投与期間は平均8.8ヶ月であった。全例に非ステロイド剤, ステロイド剤, 抗リウマチ剤が50例(83.3%)に投与されており, GSTは27例(45%)であった。柴苓湯投与後, 3ヶ月, 6ヶ月, 9ヶ月の期間別の臨床評価, また随証群と非随証群とに層別しての臨床評価, そして患者の評価についても検討した。

結果 リウマチ炎症に対する効果では, 朝のこわばり持続時間, 活動関節点数, 握力, 血沈値, ランスバリー活動性指数の変動は投与後6ヶ月, 9ヶ月で統計学的に有意な改善が認められた。臨床検査では, CRP, RAHA, 血清Fe, Hb, 血小板等に何ら有意な変動は認められなかったが, 尿中NAGが6ヶ月, 9ヶ月で有意に減少した。その他患者の評価では投与後に「痛みがやわらいだ」23例(38%)「何となく調子がよい」19例(32%)「尿量が増えた」18例(30%)などであった。ステロイドの離脱が4例(7%)に, 減量が9例(15%)に可能であった。

考察ならびに結論 RAの薬物療法(抗リウマチ剤, 非ステロイド剤に加えて特にステロイド維持投与例)に柴苓湯を加えた結果, リウマチ性炎症に対し明らかな効果を得た。その効果は投与後6ヶ月より有意に発揮され, 9ヶ月後でより明らかに認められた。また虚実中間証で脇胸苦満を有する患者, いわゆる随証群(32例)は他群(実証2名, 虚証26名)に比べ, リウマチ炎症の平均改善度はより明らかであった。患者の評価で「痛みがやわらいだ」「何となく調子がよい」などがみられ印象的であった。小柴胡湯の免疫調節作用, 五苓散の水分調節作用がRA患者にとって抗炎症, ステロイド増強作用, 利尿作用によって, 有利に働きRAの自然経過を変え得るものであるかは今後の検討が必要である。